

### 【興除シンボルマークの由来について】

平成6年3月に岡山市興除地区地域振興事業推進協議会が市民から募集して興除地区のシンボルマークを決めた。同協議会は「マークの普及を図り、興除地区の活性化に役立てていきたい」と考えた。

シンボルマークは市民から公募した364点の中から最優秀賞に選ばれた、当時興除中1年の竹林俊枝さん（同市曾根）の作品を補作したものである。同地区内の西畦、曾根、中畦、内尾、東畦の五カ所を笑顔で表現したもので、顔の形は同地区でとれる米や麦、大豆やナスを表している。

興除地区は市南西部を代表する農業地帯の一つ。昭和46年に岡山市との合併によって地図から”興除”の名前が消えた。同協議会は「多くの人に興除地区のよさを知ってもらおうと」1月からシンボルマークを募っていた。シンボルマークはJR瀬戸大橋線・妹尾駅前や市興除支所など五カ所に同地区をPRする看板として設置された。

